

# 岩手県家畜及び鶏の改良増殖計画

令和 8 年 3 月  
岩 手 県

## 目 次

I	まえがき	・・・・・・・・・・ 1
II	計画の期間	・・・・・・・・・・ 1
III	乳用牛	・・・・・・・・・・ 1
IV	肉用牛	・・・・・・・・・・ 4
V	馬	・・・・・・・・・・ 10
VI	鶏	・・・・・・・・・・ 12

## I まえがき

本県の畜産は、飼養頭数や産出額で全国トップクラスの地位にあり、畜産物の生産・加工・流通を通じた関連産業での雇用創出など、地域経済に重要な役割を果たすとともに、県土の保全、良好な農村景観の形成にも寄与しています。

しかしながら、本県の畜産経営は、高齢化や後継者不足等により飼養戸数・頭羽数が減少する中で、物価上昇等による生乳や牛肉の消費の落ち込み、国際情勢や円安の影響等による飼料価格の高止まりなどにより、生産基盤の維持・強化や生産性向上等による収益力の向上が必要となっています。

岩手県家畜及び鶏の改良増殖計画は、こうした状況を踏まえ、国、関係機関・団体及び農業者との連携のもと、家畜等の生産性向上による畜産振興を目的として、家畜改良増殖法（昭和25年法律第209号）第3条の3の規定に基づき、おおむね5年ごとに国が定める10年後の家畜の能力、体型及び頭数を参考に、本県の家畜及び鶏の改良増殖の長期的な見通しに立った基本計画として定めるものです。

なお、豚については、令和8年度より県での系統造成を行わないことから、国の家畜改良増殖目標に準じて取り組んでいくこととします。

## II 計画の期間

令和8年度から令和17年度までの10年間とします。

なお、鶏については、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

## III 乳用牛

### 1 改良・増殖をめぐる現状と課題

酪農においては、乳価は堅調に上昇しているものの、配合飼料や乳用牛価格などの変動費が上昇しています。

本県の酪農は、1戸当たりの飼養頭数が57.8頭（全国34位）であり、全国平均（114.4頭）と比べて小規模経営体が多く、高齢化や後継者不足などによって飼養戸数・頭数ともに減少を続けています。

乳用牛の能力は、乳量は年々増加傾向にあったものの、近年の暑熱の影響により、伸び悩んでいる状況にあり、また、分娩間隔は全国平均よりも長くなっています。

こうした中、本県の酪農が今後も維持・発展していくためには、地域をけん引する規模拡大志向経営体による飼養規模の拡大や、県全体の約5割を占める31～100頭の中規模経営体における生乳生産量の向上が必要です。このため、改良においては、泌乳能力の向上と体型をバランスよく改善していくとともに、個体能力を最大限に発揮させる飼養管理により、乳用牛の生涯生産性向上を目指す必要があります。

## 2 改良目標

生産コストを低減し、安定した経営を実現するため、乳用牛の生涯生産性を向上させるとともに、遺伝的能力の高い牛群作りを推進します。

また、経営体において、飼養管理が容易な牛群とするため、飼養環境に適した体型の斉一化と体各部の均衡を図る牛群づくりを推進します。

### (1) 能力に関する目標

ア 1頭当たり乳量の改良を引き続き重視するとともに、現在の乳成分を維持します。

イ 分娩間隔が長期化している個体の早期摘発と適切な飼養管理の実施により、分娩間隔の短縮を図ります。

ウ 乳量の変化が少ない（泌乳持続性が高い）乳用牛への改良を推進し、飼料利用性の向上を目指します。

エ 乳器及び肢蹄を重視した改良を促進し、供用期間の延長や長命連産性（耐久性）の向上を目指します。

オ 酪農の労働負担軽減を図るために搾乳ロボットの導入が進んでいることを踏まえ、体の極端な大型化を抑制し、牛群全体の搾乳ロボットへの適合性を高める改良も推進します。

表1 泌乳及び繁殖性に関する目標数値（ホルスタイン種）

区分	乳量	乳成分			繁殖性
		乳脂肪	無脂固形分	乳蛋白質	分娩間隔
現在 (令和5年度)	kg 9,659	% 4.02	% 8.77	% 3.30	日 439
目標 (令和17年度)	10,070	4.02	8.77	3.30	433

注 現在の乳量及び乳成分は、牛群検定成績速報（岩手県）。

### (2) 能力向上に資する取組

#### ア 牛群検定の普及拡大

牛群検定成績の有効活用を促進するとともに、牛群検定を実施していない経営体の参加を促進するため、牛群検定の利点等の情報発信を行います。

#### イ 飼養管理の改善

乳用牛が持つ遺伝的能力を最大限に発揮させるため、牛群検定成績を活用して個体の状態に応じた適切な飼養管理を行うとともに、県内10地域に組織するいわて酪農の郷サポートチームが中心となり、畜舎環境や飼養管理の改善の指導を行うことで、暑熱対策やカウコンフォートの高い飼養管理を実施します。

併せて、1頭当たり乳量等の地域格差を解消するため、サポートチームを中心として、地域の課題解決に取り組みます。

このほか、生産コストの低減や省力化を図るため、公共牧場やTMRセンター等の外部支援組織の利用を推進します。

なお、乳用牛の能力を十分に発揮させ、生産性の向上を図るためには、牛を快適な環境で飼養することが重要であることから、アニマルウェルフェア<sup>※1</sup>の考え方について、周知を図ります。

#### ウ 衛生管理の徹底

家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守を徹底します。また、消費者の信頼を確保するため、乳質改善の取組を推進するとともに、農場HACCPやGAPの普及を推進します。

#### エ 優良な後継牛の確保

総合指数（NTP）<sup>※2</sup>等に基づく遺伝的能力の高い種雄牛の凍結精液や、高能力牛の受精卵を利用した後継牛確保を促進します。

#### オ 新技術の活用

改良を効率的に進めるため、後継牛の生産における性判別技術（性判別受精卵、性判別精液）に加え、ゲノミック評価<sup>※3</sup>の活用を促進します。

また、分娩間隔短縮のため、妊娠関連糖タンパク（PAG）検査<sup>※4</sup>やICT（情報通信技術）を利用した牛群管理システム<sup>※5</sup>等の活用を推進します。

さらに、周産期疾病の予防のため、牛群検定と合わせて実施できるケトン体検査<sup>※6</sup>等の活用を推進します。

### 3 飼養頭数目標

本県の生乳生産量を維持するとともに、酪農主産県として、需給動向に即して牛乳・乳製品を安定的に供給するために、以下のとおり飼養頭数の目標を設定します。

表2 飼養頭数の目標数値

区 分	総飼養頭数	うち、成牛頭数
現 在 (令和5年度)	38,700 頭	23,700 頭
目 標 (令和17年度)	35,200	21,100

注 目標数値は、「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」の目標数値。

## IV 肉用牛

### 1 改良・増殖をめぐる現状と課題

肉用牛においては、飼料価格の高止まり等による生産コストの増大、消費者の生活防衛意識の高まりを背景とした牛肉需要の減退による枝肉価格の低迷等により、繁殖経営、肥育経営ともに厳しい経営環境にあります。

本県の肉用牛は、1戸当たり飼養頭数が28.1頭（全国47位）であり、年々増加傾向にありますが、全国平均（76.3頭）と比較して小規模であり、生産者の高齢化や後継者不足などによって、飼養戸数・頭数ともに減少しています。

近年、菊美翔平を始めとする産肉能力に優れた県有種雄牛の造成が進み、その利用が広がっています。さらに、ゲノム解析技術を活用した新たな種雄牛造成にも取り組んでおり、これらの利用拡大を通じて、岩手県の特色ある和牛子牛市場の形成を図っていきます。

また、十分な改良水準に達している脂肪交雑に加え、脂肪の質、脂肪の形状といった新たな形質の活用を推進し、食味の良い牛肉生産を進めていく必要があります。

### 2 改良目標

#### 【黒毛和種】

黒毛和種の生産基盤強化に向け、ゲノム解析技術等を活用して、枝肉重量等の肉量、脂肪交雑等の肉質を兼備し、可食部位が多い歩留に優れる種雄牛を造成します。また、牛肉中の脂肪の質、脂肪の形状等、食味に関する形質の改良を進めます。

#### (1) 能力に関する目標

ア 種雄牛については、枝肉重量、脂肪交雑、ロース芯面積など肉量・肉質の改良に加え、新たに可食部位の量に影響する歩留基準値の目標を定め、改良を推進します。

また、一価不飽和脂肪酸（オレイン酸等）等の脂肪の質及び小ザシの度合いを示す脂肪の形状など、食味に関する形質の改良を進めるため、種雄牛の能力の評価方法を確立します。

表3-1 種雄牛に関する目標数値（黒毛和種）

区分	枝肉重量	ロース芯面積	脂肪交雑	歩留基準値
現在 (令和5年度)	kg 539.1	cm <sup>2</sup> 64.6	BMS No. 9.1	% 74.3
目標 (令和17年度)	550.0	75.0	10.0	75.5

注 目標数値は、現場後代検定法における去勢牛の成績。

(参考1) 肥育牛(去勢)の一価不飽和脂肪酸割合(黒毛和種)

全国平均(令和5年度)	本県検定肥育牛平均(令和5年度)
60.6 %	60.6 %

イ 繁殖雌牛については、県内10地域に組織するいわて肉用牛サポートチームによる定期巡回指導等に加え、モットー君通信簿<sup>※7</sup>及びICT(情報通信技術)等を活用し、適正な飼養管理のもと、発情発見率の向上や適期受精の実施による受胎率の向上及び分娩間隔の短縮を推進します。

表3-2 繁殖雌牛に関する目標数値(黒毛和種)

区分	初産月齢	分娩間隔
現在 (令和5年度)	か月齢 24.7	日 411
目標 (令和17年度)	24.7	380

ウ 肥育牛については、飼料価格の高止まりの影響などにより、長期肥育による生産性の低下が懸念されることから、日増体量の改良をもって、可能な範囲で出荷早期化を進めます。

表3-3 肥育牛(去勢)に関する目標数値(黒毛和種)

区分	肥育開始時		肥育終了時		枝肉重量	1日平均増体量	肉質4等級以上の割合	肉質5等級の割合
	月齢	体重	月齢	体重				
現在 (令和5年度)	か月齢 9.5	kg 302	か月齢 30.1	kg 809	kg 518	kg/日 0.83	% 91.9	% 65.3
目標 (令和17年度)	9.0	300	27.0	800	500	0.94	92	65

注 枝肉重量は、肥育終了時の体重に歩留基準値62.5%を乗じて算出。

(参考2) 繁殖雌牛の体型に関する目標数値(黒毛和種)

区分	体高	胸囲	胸深	尻長	かん幅
現在 (令和5年度)	cm 126.6	cm 178.9	cm 64.6	cm 50.3	cm 45.1
目標 (令和17年度)	127	185	66	50	45.2

注1 現在の数値は、平均19.6か月齢での測定値。

注2 目標数値は19か月齢での測定値。

(全国和牛登録協会岩手県支部 改良増殖推進計画目標値を引用)

## (2) 能力向上に資する取組

### ア 遺伝的能力評価及び遺伝子解析技術の活用

優れた種雄牛を効率的に造成するため、ゲノム育種価や推定育種価などの遺伝的能力評価値に基づいて整備した基礎雌牛と基幹種雄牛による計画交配を推進するとともに、種雄牛候補牛は、ゲノム解析技術等を用いて、より精度の高い選抜を行います。

また、脂肪の質、脂肪の形状などの牛肉の食味に関する形質の遺伝的評価値の算出を実施し、計画的な改良を行うほか、種畜の遺伝的多様性を維持するために、本県の特徴ある繁殖雌牛を確保します。

### イ 飼養管理の改善等

繁殖雌牛については、ステージに応じた適正な栄養管理や繁殖管理の徹底、自給飼料の積極的な活用、放牧や預託施設の活用による飼養管理の省力化を図ります。

子牛については、スターターの給与の徹底による初期発育の向上、飼養環境の整備による事故率の低下を図るほか、交配による近交係数<sup>※8</sup>の上昇や遺伝的不良形質の発現の回避を推進します。

肥育牛については、育成期の給与飼料等の検討など、早期から個体の能力に応じた適正な飼養管理を行うことにより、肥育期間を短縮する効率的で生産性の高い肥育の実践を推進するほか、脂肪の質や形状等の食味に関する形質を活用できる体制を確立します。

なお、個体の遺伝的能力を十分に発揮させるためには、快適な環境のもと、適切な栄養状態で飼養することが重要であることから、アニマルウェルフェア<sup>※1</sup>の考え方について、周知を図ります。

### ウ 衛生管理の徹底

家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守を徹底するとともに、農場HACCPやGAPの普及を推進します。

### エ 受精卵移植技術等の活用

改良を効率的に進めるため、受精卵移植技術等の活用を促進し、優良な育種素材の生産を促進します。

## 【日本短角種】

日本短角種は、放牧適性や粗飼料利用性に優れており、本県の豊富な飼料基盤を有効に活かし、需要に応じた赤身肉の効率的な生産を目指す改良を推進します。

### (1) 能力に関する目標

ア 種雄牛については、赤身肉である品種特性を十分に発揮させるため、枝肉重量を確保しながら、ロース芯面積、皮下脂肪の厚さなどの歩留形質に関する遺伝的能力を集中的に改良します。また、放牧に適した肢蹄の強さを意識した改良を推進します。

表 4-1 種雄牛に関する目標数値（日本短角種）

区 分	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪の厚さ	歩留基準値	脂肪交雑
現 在 (令和 5 年度)	kg 453	cm <sup>2</sup> 50	cm 7.0	cm 2.9	% 72.3	BMS No. 2.2
目 標 (令和 17 年度)	462	52	7.2	2.7	72.5	2.2

イ 繁殖雌牛については、夏山冬里方式という日本短角種の特徴的生産方法を活かし、自然交配による一年一産の子牛生産を推進します。また、初乳の給与等の適正な子牛管理を推進します。

体型については、自然交配に供用することができる現状の体型を維持します。

### (参考 3) 繁殖雌牛の繁殖成績（日本短角種）

区 分	初産月齢	分娩間隔
現 在 (令和 5 年度)	か月齢 23.8	日 368

### (参考 4) 繁殖雌牛の体型に関する目標数値（日本短角種）

区 分	月齢	体高	胸囲	胸深	腰角	かん幅	体長
現 在 (令和 5 年度)	か月齢 20.4	cm 130	cm 185	cm 68	cm 50	cm 46	cm 150

ウ 肥育牛については、枝肉重量の増加に加え、歩留の改良を図るため、ロース芯面積や皮下脂肪の厚さの改良を推進します。

また、日本短角種は、自然交配による生産が主であり、肥育出荷時期が偏ることから、周年出荷を中心とした出荷時期の適正化を図ります。

表 4-2 肥育牛（去勢）に関する目標数値（日本短角種）

区 分	肥育開始時		肥育終了時		枝肉重量	1日平均増体量
	月齢	体重	月齢	体重		
現 在 (令和5年度)	か月齢 7.3	kg 249	か月齢 27.4	kg 802	kg 481	kg/日 0.9
目 標 (令和17年度)	7.3	255	27.0	800	480	0.9

区 分	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪の厚さ	歩留基準値	脂肪交雑	A等級割合
現 在 (令和5年度)	cm <sup>2</sup> 49	cm 7.0	cm 3.0	% 71.7	BMSNo. 2.2	% 44.8
目 標 (令和17年度)	52	7.2	2.7	72.2	2.2	50.0

注 日本短角種は周年出荷に対応するため、肥育終了時の月齢に幅が生じるが、目標値については、27 か月齢時点の数値とする。

## (2) 能力向上に資する取組

### ア 遺伝的能力評価の活用

優れた種雄牛を効率的に造成するため、遺伝的能力評価値に基づき、基礎雌牛の整備に加え、基幹種雄牛による計画交配を推進するほか、優秀な雌牛からの受精卵採卵の検討を進めます。

また、日本短角種の品種維持のため、凍結精液等育種改良資源の流通と利用、DNA解析技術等を活用した種畜の遺伝的多様性の確保を推進します。

### イ 飼養管理の改善

放牧適性や粗飼料利用性に優れる日本短角種の特性に適した飼養管理を徹底するとともに、分娩前後や哺育器などの冬期の飼養管理を徹底します。

また、地域内資源の活用や低コスト肥育管理技術等を推進するとともに、肥育期間の適正化を図ります。

種雄牛の公共牧場配置計画の整備による近交係数<sup>\*8</sup>の上昇防止対策を進め、持続的な生産が可能な体制の整備に取り組みます。

なお、個体の遺伝的能力を十分に発揮させ、生産性の向上を図るためには、牛を快適な環境で飼養することが重要であることから、アニマルウェルフェア<sup>\*1</sup>の考え方について、周知を図ります。

### ウ 衛生管理の徹底

公共牧場等における牛伝染性リンパ腫のまん延を防ぐため、新規に貸付する種雄牛は、牛伝染性リンパ腫ウイルス抗体が陰性の個体を供用します。

また、家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守を徹底するとともに、農場HACCPやGAPの普及を推進します。

### 3 飼養頭数目標

肉用牛の生産基盤を維持しながら、本県が肉用牛主産県として、消費者ニーズに応じた高品質で安全・安心な牛肉の安定的な生産・供給を推進します。

**表5 飼養頭数の目標数値**

区 分	総飼養頭数			乳用種・交雑種 頭
	頭	肉専用種	日本短角種	
現 在 (令和5年度)		頭	頭	頭
	87,900	70,900	2,168	17,000
目 標 (令和17年度)	87,900	70,900	2,168	17,000

注 目標年度（日本短角種を除く）の数値は、「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」の目標値。

## V 馬

### 1 改良・増殖をめぐる現状と課題

馬においては、生産者の高齢化や担い手不足等により飼養戸数及び飼養頭数は減少し、飼養頭数が212頭と、5年で1割程度減少しています。また、生産を支える技術者等の不足も懸念され、生産基盤の弱体化が進んでいます。本県は、馬とのつながりが深く、現在では、チャグチャグ馬コや南部流鏑馬など本県に根付く様々な馬事文化に利用されています。

こうしたことから、重種馬（農用馬）については、教育機関等に対する情報提供の場を設けるなど、担い手確保に努めるとともに、各年で変動が激しい受胎率を向上させるなど効率的な飼養管理に努め、優良馬の確保と能力向上を図る必要があります。

また、馬事文化の継続と生産意欲の向上を図るため、飼養頭数を確保する必要があります。

乗用馬については、従来の乗用利用に加え、ホースセラピー等の馬の更なる利活用の幅を広げる必要があります。

### 2 改良目標

重種馬（農用馬）の生産基盤を強化するため、効率的な飼養管理に努め、優良な種雄馬及び繁殖雌馬を確保します。

#### (1) 能力に関する目標

ア 重種馬（農用馬）については、近交係数<sup>※8</sup>の上昇に留意し、強健性の向上、粗飼料の利用性の改善を図るとともに、繁殖雌馬の適切な飼養管理により、受胎率、生産率等の繁殖能力の向上を推進します。繁殖の開始に当たっては、各個体の発育状況等を考慮するとともに、分娩前後の適切な栄養管理など適正な飼養管理により、分娩事故の低減等を図ります。

表6 繁殖能力に関する目標数値

区 分	受胎率	生産率
現 在 (令和5年度)	% 73	% 64
目 標 (令和17年度)	75以上	65以上

注 現在の数値は、公益社団法人日本馬事協会の調査結果。

イ 乗用馬については、強健性の向上、性格温順で動きの軽快な乗りやすいものへの改良を推進します。特に、競技用馬は、運動性に富み、飛越力及び持久力等に優れたものとしします。

## (2) 能力向上に資する取組

### ア 重種馬（農用馬）の改良・基盤整備

ブルトン種、ペルシュロン種等の純粋種を含む優良種雄馬の導入や種雌馬の保留、人工授精技術を活用した改良を推進します。また、馬の血統登録及び繁殖登録を推進し、育種改良基盤の整備に努めます。

### イ 飼養管理の改善等

技術研修会等の開催を通じて、飼養管理の改善、放牧のための馴致や育成技術等の向上に努めるとともに、繁殖技術の改善・普及に努めます。

また、繁殖の開始に当たっては、各個体の発育状況等を考慮するとともに、分娩前後の適切な栄養管理など適正な飼養管理により、分娩事故の低減等を図ります。

なお、馬の能力を十分に発揮させ、生産性の向上を図るためには、馬を快適な環境で飼養することが重要であることから、アニマルウェルフェアの考え方について、周知を図ります。

### ウ 衛生管理の徹底

家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守の徹底について指導します。

### エ その他

馬の多様な利活用に関する情報の収集・共有に努めます。

## 3 飼養頭数目標

馬の生産基盤を維持するとともに、重種馬（農用馬）、乗用馬、それぞれの需給動向に即した生産に向け、以下のとおり飼養頭数の目標を設定します。

表7 馬の飼養頭数

区 分	重種馬 (農用馬)	乗用馬	計
現 在 (令和5年度)	頭 92	頭 120	頭 212
目 標 (令和17年度)	100	120	220

注 現在の数値は、岩手県馬事振興会の調査結果。

## VI 鶏

### 1 改良・増殖をめぐる現状と課題

消費者の鶏肉嗜好の多様化が進む中、特色ある味わい深い地鶏が全国各地で生産されており、本県では、昭和60年に、地鶏肉 J A S<sup>\*9</sup>に定める在来種<sup>\*10</sup>から初代「南部かしわ<sup>\*11</sup>」を、平成15年には、天然記念物「岩手地鶏<sup>\*12</sup>」を組み入れた二代目「南部かしわ<sup>\*13</sup>」を開発し、生産者への素びな供給による「南部かしわ」の生産振興と産地化に取り組んできました。

平成27年度には、近交係数の上昇により、産卵率や卵重が低下した母系素材鶏のロードアイランドレッドの改良に取り組んだところであり、引き続き、「南部かしわ」の産地ブランドの確立に向け、母系素材鶏及び父系素材鶏である地鶏交雑種の能力の維持・改良による生産者への素びなの安定供給に取り組んでいく必要があります。

### 2 改良目標

「南部かしわ」については、在来種<sup>\*10</sup>等の繁殖性や増体性を向上させながら、安定的に素びなを供給していきます。

#### (1) 能力に関する目標

「南部かしわ」の素びなの安定供給を図るため、平成27年度に産卵率の向上に向けて改良したロードアイランドレッドについて、体重の維持と産卵率の向上を図るとともに、父系素材鶏の能力の維持・改良を推進します。

表8 ロードアイランドレッドの能力に関する目標数値

区 分	150日齢体重		産卵率 (150～270日齢)
	雄	雌	
現 在 (令和5年度)	kg 3.7	kg 2.5	% 83
目 標 (令和12年度)	3.7	2.5	89

#### (2) 能力向上に資する取組

##### ア 母系素材鶏の選抜交配

平成27年度に改良したロードアイランドレッドの能力の維持・改良持を図るため、増体や産卵率に優れた個体の選抜交配を継続します。

##### イ 父系素材鶏の能力の調査

父系素材鶏である地鶏交雑種の能力の維持・改良を図るため、近交係数<sup>\*8</sup>に留意しつつ、能力に関するデータを調査し、必要に応じて改良に着手します。

#### ウ 適正な飼養・衛生管理

鶏の能力を十分に発揮させるためには、快適な環境で飼養することが重要であることから、アニマルウェルフェア<sup>※1</sup>の考え方について周知を図ります。

持続可能性（SDGs）を考慮した生産を図るため、地域で生産される飼料用米や大豆等の利用を推進します。

また、鶏の能力を十分に発揮させるため、「南部かしわ飼育マニュアル」（平成30年3月策定）による飼養管理を推進するとともに、飼養衛生管理基準を遵守した衛生的な飼養管理下での健康な「南部かしわ」の生産を推進します。

#### エ その他

飼養管理技術の向上や「南部かしわ」の知名度向上を図るため、「南部かしわ研究会」を通じた生産者同志の連携を強めるとともに、消費拡大に向けたPRの取組を強化します。

### 3 年間雛供給羽数目標

「南部かしわ」の生産基盤を維持するため、生産者への安定的な素びな供給に向け、以下のとおり年間雛供給羽数の目標を設定します。

表9 年間雛供給羽数目標

区 分	羽 数
現 在 (令和5年度)	1,168
目 標 (令和12年度)	3,000

## 【用語説明】

### ※1 アニマルウェルフェア

「快適性に配慮した家畜の飼養管理」を意味するもので、家畜のストレスや怪我、疾病等を減らし、家畜の能力を引き出すことで、生産性の向上につながるもの。

「国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について」(令和5年7月26日付け5畜産第1062号農林水産省畜産局長通知)

### ※2 総合指数 (NTP : Nippon Total Profit Index)

泌乳能力と体型をバランス良く改良することで、着実に長期間延長できる経済性の高い乳用牛を作出するための指数のこと。

### ※3 ゲノミック評価

DNAを構成する塩基配列から、その牛の遺伝的能力を評価したもの。従来評価と比べて、早期に遺伝的能力を推定できることから、若齢牛の評価に優れており、改良スピードの向上が期待される。

### ※4 妊娠関連糖タンパク (PAG) 検査

妊娠牛の胎盤から分泌される糖タンパクを乳汁から検出することで、牛の妊娠(空胎)を確認する検査。人工授精後28日目以降から判定が可能となり、早期に不受胎牛を摘発して再授精することで、空胎日数の短縮が期待される。また、酪農家の任意のタイミングで乳汁サンプルを採取できるため、労力負担も少ない。

### ※5 ICTを活用した牛群管理システム

牛体に装着されたセンサーと情報端末により、牛の行動や状態を把握し、発情や体調不良牛等の発見が可能となる。搾乳システムや自動給餌機と連携してデータに基づいた個体管理ができるようになるなど、多様なシステムの開発が進んでいる。

### ※6 ケトン体検査

牛群検定の乳成分サンプルからケトン体の一部( $\beta$ -ヒドロキシ酪酸)の含有量を調べることで、乳用牛の代表的な栄養障害であるケトーシスを探知することができる検査。

### ※7 モットー君通信簿

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会が、肉用子牛生産者補給金制度に加入している繁殖農家を対象に情報提供しているもので、個別農家の繁殖成績や遺伝的能力評価値、産子の肥育成績等が記載されている。

### ※8 近交係数

近親交配の度合いを示す数値。両親に共通する祖先が持つ遺伝子を両親から受け継ぐ確率。

※9 地鶏肉 J A S (令和7年9月2日最終改正)

日本農林規格により、地鶏肉の生産方法の基準が定められている。基準は、①素びな：在来種由来血液百分率が50%以上のものであって、出生の証明（在来種からの系譜、在来種由来血液百分率及びふ化日の証明をいう。）ができるものを使用していること、②飼育期間：ふ化日から75日間以上飼育していること、③飼育方法：28日齢以降平飼いで飼育していること、④飼育密度：28日齢以降1㎡当たり10羽以下で飼育していることの4項目。

※10 在来種

明治時代までに国内で成立し、又は導入され定着した鶏の品種をいい、岩手地鶏、軍鶏、ロードアイランドレッドを含む38種が定義されている。

※11 初代南部かしわ

地鶏肉 J A S に定める在来鶏の血液割合が75%（下線を付したものが在来種）。

<u>ロードアイランドレッド</u> (♀)	×	<u>軍鶏</u>
ホワイトプリマスロック (♂)		
母	父	
初代南部かしわ		

※12 岩手地鶏

岩手県内の県北の山間部から県南部にかけて古くから農家の庭先で飼養されていた鶏で、一時は絶滅したものと思われてきたが、1975年に再発見され天然記念物に指定された。

※13 二代目南部かしわ

地鶏肉 J A S に定める在来種の血液割合が62.5%（下線を付したものが在来種）。

<u>ロードアイランドレッド</u> (♀)	父方 祖母	<u>岩手地鶏</u> (♀)
		×
ホワイトプリマスロック (♂)	父方 祖父	有色コーニッシュ (♂)
母		<u>軍鶏</u>
二代目南部かしわ		